



生きる力を育む体験活動の重要性と 子どもの変容について

秋田県立大館少年自然の家 所長 庄 司 弘

1 各種調査から見た体験活動の重要性

体験活動の重要性は、以前から言われていますが、どんな体験を、いつの段階にすればよいのか、そして、体験を通してどんな力が身につくのか。さらに、子ども時代の豊かな体験が、大人になってから、どんな教育効果を与えるのかという調査がなかったことから、国立青少年教育振興機構やベネッセ教育研究開発センターでは、「子どもの体験活動の実態に関する調査」「青少年の体験活動等と自立に関する意識調査」「子どもの生活実態調査」などを行っています。その結果、

- (1) 子どもの頃の体験が、将来の意欲・関心、規範意識、職業意識などに影響を与えている。
- (2) この関係は、経年調査でも変わっていない。
- (3) 近年、自然体験や生活体験、情緒体験は減り、文化体験は増える傾向にある。
- (4) 自然体験を行う頻度は、近年、居住地による違いはほとんど見られなくなってきた。

などの結果が出ており、秋田県においても幼年期から青年期における体験活動の必要性は、これまで以上に重要視されなければならないと考えられます。

2 大館少年自然の家事業から

秋田県教育委員会では、今年度「わんぱく3ぱく体験活動プロジェクト事業」を行いました。県立3少年自然の家と八峰町の白神体験センターにおいて、子どもたちの自立心や社会性、協調性の変容や向上が見られるとされる、3泊以上の長期宿泊体験活動を実施する取組です。大館少年自然の家でも、「夏のアドベンチャー」「チャレンジキャンプ」「宿泊通学学級Ⅰ、Ⅱ」と4事業を行いました。

3泊4日でテント泊や館内泊をし、交流ゲーム、食材購入をしておきの野外炊飯やウォークラリーなどのほか、森吉山や八甲田山の登山、ダム見学、温泉入浴体験、奥入瀬溪流の散策などを行いました。「宿泊通学学級」は、5泊6日で実施し、共同生活をしながら、少年自然の家から各小学校に通います。テレビ、ゲームのない集団生活を1週間することで、必然的に友だちとの会話、かかわりを持つ生活をするようになります。



そのほかにも、子どもや家族を対象とした「子どもハイキング」を4回行い、達子森、大山、三哲山、鳳凰山と市内の歴史ある里山に登りました。これを機会に親子で登山、健康作りと考えて参加した家族が多くありました。また、幼稚園の年長児から小学校低学年を対象とした「アウトドアスクール」では、長根山から長木川沿いを歩き、虫取りや川遊びなどを行っています。4回行いましたが、回を重ねるごとの子どもたちの変化と成長を感じます。遊び道具がなくとも、虫取り、川遊び、石拾いなど、子どもたちは多様な遊びを工夫するものと感じました。

3 活動に携わって

活動に携わり、子どもたちには様々な体験が必要であることを実感しました。物質的にどん

かな時代になろうとも、人や自然、動植物とのかかわりの中で感じる事、磨かれることがたくさんあります。偶然の出会いもありますが、必要な時期に意図的に行うことの必要性を感じます。失敗もありますが、経験することで、満足感や自信を持つことが数多くあります。

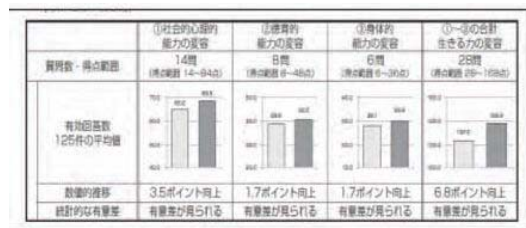
また、子どもたちは、すぐに仲良くなり、仲良くなるほど口げんかやトラブルもあります。それを乗り越えることも貴重な体験と考えます。さらに、子どもに体験活動をさせたいと考える保護者が多くいることも感じられました。少年自然の家では、事業評価も兼ね、終了後にアンケートをお願いしていますが、子どもの成長を真剣に願い、ちょっとした気づきや出来事に喜びを感じた感想がたくさんありました。

それだけに、すべての子に、いろいろな経験をさせたいと感じるとともに、この経験をしないままに過ごしてしまう子どもたちもいて、体験頻度の二極化傾向が広まっていないかが心配されます。

4 子どもの変容について

今年度行った「わんぱく3ぱく体験活動プロジェクト事業」は、3泊4日以上長期宿泊体験の場を子どもたちに提供することがねらいですが、その体験活動により、子どもたちがどう変容し、「生きる力」にどう影響を与えるかを調査するねらいもありました。国立青少年教育振興機構が開発した「生きる力」測定アンケートと分析ソフトを活用し、28項目のアンケートに、秋田県独自の5項目を付け加え、子どもには事前・事後・追跡の3回、終了後には保護者アンケートも実施しました。体験活動による子どもたちの「社会的心理的能力」「徳育的能力」「身体的能力」の変容を調べるものです。

その結果、中間報告ではありますが、3つの能力すべてにおいて、向上が見られ、統計学的にも有意差が見られる状況でした。客観的データとして、体験活動が生きる力の向上に効果があるという結果が得られたこととなります。また、秋田県独自の質問項目においても、長期の宿泊体験活動が、自立心や社会性、協調性を高めていることがわかりました。この結果から、学校においても、これまで以上に長期の宿泊活動が推進されることを願っています。



5 まとめ

体験活動が子どもの成長や生きる力に大きな影響を与えていることがわかりました。参加した子どもたちにも、生きる力の変容、向上が見られました。今後家庭や地域はもちろん、学校などの教育活動においても、これまで以上に体験活動を重要視する取組が必要です。そのためには、

- (1) 計画的に実施することで、内容面からも経費面からも効果的に実施できる。
- (2) 学校だけでなく家庭や地域の協力を得ながら、広く実社会で行うことが効果的である。
- (3) 生涯を通じて行われるべきものであり、各学校・各段階をつなぐ連携の重要性がより高まる。

体験活動を行うことも、生きる力を育むことも、人間が一生の中で経験し、身につけていくものと考えます。幸いなことに、秋田県には、全国に先駆けて、昭和40年代から生涯教育に取り組んだ実績があります。その活動は現在も脈々と受けつがれています。また、大館市では、すべての小・中学校で学校支援地域本部事業に取り組んでおり、家庭や地域と連携し、広く社会全体で、子どもに体験活動を体験させ、生きる力を育む下支えができています。今後もますます、生きる力を育む体験活動推進され、充実した活動になることを願っています。